

考  
え  
よ  
う

働  
く

と  
い  
う  
こ  
と



人はどんな場合においても常に楽しい心をもってその仕事をする事ができればすなわちその人はまことの幸福な人といえる。

国木田独歩『日の出』

## 「大きくなったら何になりたいの?」

こうたずねられたとき、幼い私たちは目を輝かせて答えてきた。「プロ野球選手」「花屋さん」「電車の運転手さん」「大工さん」……それは夢であり、あこがれであり、そして遠い遠い先の話だった。

いま、私たちは中学生になり、この問題はそう遠い話ではなくなった。

私たちはもう、「働く」ということの意味について、考えておくべき年ごろになっている。



我々が死ぬまでには此世の中を少しなりとも善くして死にたいではありませんか。何か一つ事業を成し遂げてできるならば我々の生まれた時よりも此日本を少しなりとも善くして逝きたいではありませんか。

内村鑑三『後世への最大遺物』



## 働くことがもっている大きな意義

「働く」というと、単にお金をかせぐためだと思いがちだけれども、実は、生きがいや自己実現にもつながっている。自分の大切な人の生活を支えることでもあり、自分の夢を実現するためのものでもあるという意味で、個人の幸福追求の手段といえることができるだろう。

その一方で、勤労は社会への貢献でもあることを忘れてはいけない。いろいろな仕事があって、それは必ず社会の役に立っている。その仕事を通し、きっと社会の中のだれかが恩恵を受けていたり、助かったりしているのだ。

「働く」ということには、個人と社会において同じように大きな意義が存在する。

# 「働く」ということには社会を支え、

# 世の中に貢献する力がある。

いまのあなたが「働いた」と感じるのはどんなときだろう。  
 勉強をしたときだろうか。  
 学校への行き帰りだろうか。  
 いや  
 それはきっと  
 だれかの役に立ったと感じたときではないだろうか。  
 たとえば  
 食事の後に皿洗いをしたときや  
 草むしりをしたとき  
 ボランティア活動に参加したとき…  
 そんなとき  
 あなたは「働いたなあ」と  
 感じるのではないだろうか。



あなたが「働いた」と感じるとき  
 それは、どこかでだれかの役に立っている。  
 同時に何ものにもかえがたい充実感や喜びが得られるはず。  
 —どんな仕事でも、「働く」ということは  
 きっとだれかの役に立っている。  
 「働く」ということは  
 自分のためばかりではなく  
 社会に奉仕し、そして貢献するということだ。



私は「働く」ことをこんなふうに考える。

## 自分の体験で感じたこと、考えたこと

学校の活動や毎日の生活の中で、「働く」ということについて、あなたが学んだこと体験したことをもとに、感じたこと、考えたことを記録しておこう。

年 月 日

年 月 日

年 月 日

## 「仕事が楽しけりゃ天国だよ」 と言う人もいる

人生の先輩に「働く」ことの喜びとは何かを取材してみよう。

あなたの感想も書きそえよう。

\_\_\_\_ さんの考え

年 月 日

\_\_\_\_ さんの考え

年 月 日

\_\_\_\_ さんの考え

年 月 日

\_\_\_\_ さんの考え

年 月 日